

令和3年度第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見を頂きました。

1 日程及び場所

令和4年3月10日（木）

Web会議形式にて開催

2 議題

- （1）近畿中国局管内の木材需給動向について
- （2）国有林材供給調整の必要性について
- （3）その他

3 議事概要

《検討結果》

国産丸太は、製材工場等の在庫の確保等により、一時期の価格の高騰は落ち着いている。山側の積極的な出材もありヒノキは地域によって在庫がダブっている状況も見られる一方で、スギやB・C材は未だ不足している状況にある。

輸入木材は、引き続き海外需要に加え、燃料高やコンテナ不足による海上運賃の上昇等により不足している状況が続いている中、急激な原油高による輸送費の高騰、ウクライナ情勢に伴う国際的な木材の需給動向等、懸念材料が多く不透明感が更に強くなっている。

以上のことから、地域での樹種や用途等の需要の動向、民有林材の供給状況、木材の輸出入状況等について情報収集を行いながら、令和4年度の素材生産事業の早期発注や立木公売の早期実施等により、国有林からの素材並びに立木の安定供給・販売に努める。

〈主な情報、意見等について〉

○木材の需給動向について

- ・和歌山県では、製品価格は横ばいだが、11月以降の原木市場の価格はスギ・ヒノキとも下落傾向となっている。
- ・岡山県内の原木価格について、ヒノキは昨年の夏頃は非常に高い価格を付け、3mの15、16cmで53,000～55,000円という時期もあったが、その後徐々に下降し、現状では32,000円程度に落ち着いている状況。また、スギは緩やかに上昇してきており、直近の市場では㎡当たり15,000円程度という状況。製材価格は、昨年の夏にヒノキが16万円という状況もあったが、現在ではスギ、ヒノキともに11万円程度で落ち着いている状況。
- ・岡山県では、製材品価格と素材の価格がリンクしてないように思われる。昨年8月の素材価格のピーク時から製品価格は横ばいになっているのに対し、素材価格は約40%下落している。
- ・兵庫県内では、スギの丸太の価格は上がる一方で、現状のスギの出材量は非常に少ない。ヒノキの丸太は反対に、ここ1週間から10日の間、売れないものが非常に多く出てきた。ヒノキの価格は下がっていく一方だと予想。
- ・和歌山県内の令和3年の素材生産量は、対前年比7%増の約26万㎡となった。
- ・岡山県内では、昨年はウッドショックの旺盛な需要から出材が増えたが、この、一か月だけを見ると、ヒノキが主体ということも要因にあるかもしれないが、例年に比べてやや出材量が減っている。
- ・和歌山県内では、令和3年度はウッドショックの影響により、間柱などの羽柄材や、梁桁などの注文が入るなど、国産材の需要が高まった。
- ・Rウッドや米マツから国産材を使った製品に移行している顧客がいる。Wウッドに関しては、スギの集成管柱に大分シフトしており、国産材の認知は非常に高まっている。
- ・岡山県内では、非常にラミナが今好調で、今まで取引のなかった大手からもラミナがほしいとの声がある。
- ・和歌山県内のPC工場では、合板の入荷がしづらい状況が続いているが、PC工場が調達した原木を持って行き合板にしてもらうなどの取り組み、協議を重ねながら入手し、工場の稼働は例年並みとなっている。また、米材や欧州材といった輸入材の不足は解消されている。
- ・PC工場では、住宅着工の堅調に合わせて総じて堅調に見えるが、合板の不足や住設機器の納期の遅れなどから稼働率が下がっているところもあり、思ったより伸びていない状況。
- ・岡山県内では、PC工場も今十分に在庫を持っており、すぐに原木を必要とする状況ではない。
- ・和歌山県内の工務店では、住宅設備の不足から着工が鈍っている。
- ・合板業界はロシアから合板の中間製品である単板を月2万6千㎡輸入している。しかし、ウクライナ情勢によりこれが入らなくなる可能性がある。原木換算すると、月4万3千㎡となり、単板が入らなくなれば、合板メーカーとしては毎月4万3千㎡の原木を他から集荷しなければならない。米材は、急に量を増やすことは難しく、国産材

争奪戦を懸念している。

- ・和歌山県内では、バイオマス用材と競合するC材需要が伸びているところから、バイオマス用材の集荷に苦戦しており、枝葉の集荷が広がっている。
- ・兵庫県内では、バイオマス燃料の価格が上がっている。近隣の木質バイオマス発電所は、燃料の供給ができず、しばらくの間、稼働を止めていた。
- ・和歌山県内の原木市場では、10月の平均価格は、前年同月と比べるとスギ2,600円高、ヒノキで8,500円高であったが、その後2月ではスギが1,400円、ヒノキが4,600円と価格差が少しずつ小さくなっており、下落している。
- ・奈良県内の原木市場では、スギ並材は引き合いが強くウッドショック前と比較して3~5千円高で推移。ヒノキ並材は昨年の高値相場からは下落したものの、ウッドショック前と比較して1万円あまりの高値水準を維持している。12月以降輸出用材として価格の下支えとなっていた小径木は下落後横ばい状況。バイオマス用材は合板輸出用材の影響を受け、集材量が増えていないため、価格は堅調に推移。
- ・大阪府内の製品市場では、1月は前年と比較して売り上げがプラス37%。11ヶ月連続前年同月増となっている一方で、販売量はマイナス23%と7ヶ月連続前年同月減となっており、原因は合板不足、住設機器の欠品の影響が多分にあると思われる。

○今後の見通しについて

- ・和歌山県内では、製品価格の高止まりが続いているが、今後どのような形で木材価格が落ち着くのか注視している状況。また、最近では、ウクライナ情勢に伴う、北欧材やロシア材の動きや中国の動きがどのようになっていくのか。輸入材の価格高騰、また混乱することにならないか非常に注目している。
- ・岡山県では木材市場の努力によって、植え付けあるいは五年間の下刈りに対する、森林所有者負担なしで再造林ができるような仕組みがあり、これによって民有林の皆伐再造林意欲が進み、4月以降は出荷量が増える見込み。
- ・奈良県内では、12月からへり集材も始まり4月頃までは順調な素材生産と見ている。ヒノキに続き、スギ価格の上昇によってスギの出材量も順調に増加してくると見ている。
- ・今後の大阪府内の製材品の動向は、ヒノキは原木価格の下落に伴い、製品価格も下がり傾向になるが、それ以外の製品価格は高値安定状態が続くと思われる。外材の品薄状態は、ほぼ解消したが、合板不足と住設機器の欠品、今回のウクライナ情勢での影響により先行きが見通せない状況となっている。

○その他

- ・輸入材の海上輸送についてバルト海・黒海を通るものは、ウクライナ情勢により船会社が事故を恐れており、コンテナが滞留する等、物流の面から非常に厳しい状況にあるものと予想される。
- ・ロシア材の需要動向と懸念材料については不透明さが強くなっており、ロシア材よりむしろ、本邦の主要プレーヤーである欧州材が入ってこなくなることを懸念している。
- ・素材生産が低調な中、前年比3割増もの原木が輸出される状況がある。今後のウクライナ情勢を考えたとき、国内の需要に合わせた原木供給の準備が必要と考える。
- ・製紙業界からも背板チップ、原木チップにかかわらず増量してほしいとの要望が非常に強くなっている。この要因の一つに今般のウクライナの問題があり、ロシアからの

- チップの入荷を予定していた製紙会社は混乱しているという話も聞いている。
- ・ 日本政府のロシア経済制裁を考えると、ロシアからの単板輸入や中国への原木輸出を見直す必要がある。